

令和5年度第2回地方独立行政法人機構評価委員会 議事要旨

日 時 令和5年9月5日(火) 16時00分から17時10分

場 所 加古川中央市民病院 3階会議室1

出席者 委員 5名
加古川市民病院機構 13名
事務局 6名

会議次第 1. 開会
2. 議題
 (1) 令和4年度業務実績に関する小項目評価について
 (2) その他
3. 閉会

1. 開会	開会の宣言 ＜委員長あいさつ＞
2. 議題	<p>(1) 令和4年度業務実績に関する小項目評価について</p> <p>事前に提出いただいた各委員の評価について、評価が異なる小項目を中心に質疑及び議論を行い、委員会としての評価を決定していくことを委員長から各委員へ説明があった。</p> <p>【項目】1-1-(2) 災害時における機能の強化</p> <p>法人自己評価：「4」 委員事前評価：「4」（3人）、「5」（1人）⇒ 評価委員会評価：「4」</p> <p>(委員) 実際に災害が起こったわけではないが、市民病院としてきちんと対策はされており、法人と同じ評価とした。</p> <p>(委員) 年度計画を全て達成しており、災害レベルのコロナ禍という状況で、連絡網の整備や兵庫県合同防災訓練への参加など積極的に取り組んだ点を高く評価する。</p> <p>(委員) 連絡網作成など、広範囲に機能を強化していった点が非常に評価できるが、数字的に顕著な増加はなかったため、法人と同じ評価とした。</p> <p>(委員) 目標は順調に達成しているが、前年度と比較して受講者数や受講率が少し減少しているところもあり、法人と同じ評価とした。</p> <p>【項目】1-1-(4) 地域の中核医療機関としての役割の発揮</p> <p>法人自己評価：「5」 委員事前評価：「4」（1人）、「5」（3人）⇒ 評価委員会評価：「5」</p> <p>(委員) 4と評価をしていたが、コロナ禍でも人間ドック受診者数や紹介率、逆紹介率の目標を達成しており、各委員と同様に5の評価としても良いと感じた。</p> <p>(委員) 県の地域医療支援病院の認定基準について、市民病院はその基準を完全にクリアしており、地域の信頼を受けていることが数字に現れている。今後も市民病院が他の地域の病院とどのように連携を進めていくのか期待している。</p> <p>【項目】1-2-(5) 小児医療の充実</p> <p>法人自己評価：「4」 委員事前評価：「4」（3人）、「5」（1人）⇒ 評価委員会評価：「5」</p>

(委員)

小児医療は、市民病院が東播磨地域の拠点となっていることに間違いはない。コロナ禍においても小児患者を積極的に受け入れている。目標の達成率も上がっており、評価は法人評価通りの4とした。

(委員)

小児医療の充実については、目標の達成率が127.6%となっており、著しく達成されている。活動指標の喉頭気管支鏡を用いた気道評価件数が前年度と比べてほぼ倍増していることも踏まえ、高く評価した。

(委員)

救急搬送の受入件数も増加しており、入院・外来もほぼ横ばいで推移している。

(委員)

小児科救急搬送受入件数の達成率が127.6%というのが5の評価に値すると思うが、活動指標で前年度と比べて一部数値が下がっていることを勘案して4と評価した。

(委員)

コロナ禍で、小児患者の受け入れを制限している病院もあり、一部の病院に集中した結果、救急搬送受入件数が増えたと考えられる。少子化の影響で小児の数が減ってきているので、手術件数が減っていくのはある程度仕方がないとも考える。

(委員)

救急搬送受入件数も大幅に上がっており、コロナ禍でこれだけの数字を残しているのは、病院として精一杯やっていると思われる。実績やコロナ禍等の状況、専門的な医療のあり方という観点から見ても評価できる内容であるため、委員会評価を5とする。

【項目】1-2-(8)高度・専門医療を提供する人材の確保と育成

法人自己評価：「4」

委員事前評価：「4」（3人）、「5」（1人）⇒ 評価委員会評価：「4」

(委員)

達成率は100%に至っていないが、専攻医数や初期臨床研修医数は目標に対してそれぞれ1人足りていないだけである。

初期研修医のマッチングがフルマッチであったり、1位希望人数が兵庫県トップであったり、大学院への職員派遣などモチベーションを向上させる取組にも力を入れており、高度専門医療を提供する人材の確保と育成の観点から高く評価できる。

【項目】2-2-(1)やりがいづくり、モチベーションアップへの取組の充実

法人自己評価：「4」

委員事前評価：「4」（3人）、「5」（1人）⇒ 評価委員会評価：「4」

(委員)

職員満足度は、前年度より若干低下はしているものの、約75%というのは、この規模の組織ではなかなかすごい数字だと思う。活動指標についても、やりがいや誇りを感じると答えた割合が前年度より3%上がっていて、人数にすると相当な数が増えていると思われる。

(委員)

100%には近づけてほしいが、職員満足度が100%になることはありえないと思う。違う意見や感覚を持っている人を巻き込むような改革がこれからも必要だと思う。これからの期待して委員会の評価は4としたい。

【項目】4-1-(1)地域社会との協働の推進

法人自己評価：「3」

委員事前評価：「3」（3人）、「4」（1人）⇒ 評価委員会評価：「3」

(委員)

認知症の予防推進など、地域との協働の推進は図られているが、顕著な数字に表れているところはなかったため、法人と同じ評価とした。

(委員)

地域社会との協働の推進は間違いなく実行されており、年度計画・目標を概ね達成だとは思いますが、活動指標として挙げられている地域イベントへの参加件数等が少ない。コロナ禍が明けてきてイベントに参加できるようになれば、そういった点をさらに評価する形で良いと思う。

(委員)

各種委員会の委員に就任しているなど、市との連携は具体的にどのようなものがあるのか。

(機構)

市の各種委員会に関係部署のスタッフが参加し、意見を述べるなどの連携は行っています。

(委員)

今後の取組方針にも記載があるように、動画配信やオンライン開催など、コロナ禍でも可能な方法を検討し、引き続き取り組んでもらいたい。

【項目】4-1-(2)市施策への協力

法人自己評価：「4」

委員事前評価：「3」（1人）、「4」（2人）、「5」（1人）

⇒ 評価委員会評価：「4」

(委員)

病院事業と並行してワクチン接種に協力したことを評価する。

(委員)

高度医療や緩和医療が確立されている中で、今後は若い年代も含めた予防

	医療が注目されるので、そういった面で市と病院との連携ができるのではないかと期待する。
	(2) その他 特になし。
3. 閉会	<副委員長あいさつ>